

アイデアをカタチに

あなたのビジネスプランを聞かせてください。



MATSUE OPEN SOURCE BUSINESS PLAN CONTEST 2023

募集期間

2023. **1.10** TUE 12:00まで

最終審査会

2023. **2.18** SAT 13:45～

場所: 松江テルサ4F 大会議室

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて、オンライン開催になる場合もあります。

プレイベント開催

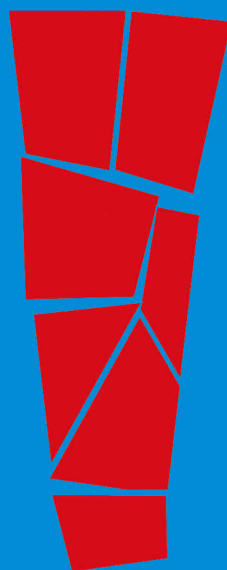
2022. **11.26** SAT 13:30～

場所: 松江オープンソースラボ

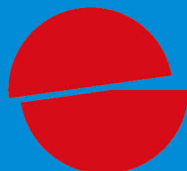
山陰ノコード広場とコラボ開催! 多様な働き方を聞きながら、自分らしいビジネスアイデアを探してみませんか?



応募方法 プレイベントの詳細についてはこちらから。



← BUSINESS PLAN



お問合せ 松江オープンソース活用
ビジネスプランコンテスト実行委員会事務局

Tel: 0852-60-7101 担当 横原 / 曾田

〒690-0816 松江市北陵町1番地 (松江市産業経済部まつえ産業支援センター内)
E-mail: oss-contest@city.matsue.lg.jp

[主催] 松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト実行委員会 (しまねOSS協議会+松江市)

[後援] 島根県、公益社団法人しまね産業振興財団、国立大学法人島根大学、独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校、山陰合同銀行、日本政策金融公庫松江支店

松江オープンソース活用 ビジネスプランコンテストとは？

松江市では、オープンソースのプログラミング言語「Ruby」を松江市の重要な資源と位置づけ、産学官による産業振興施策「Ruby City MATSUE プロジェクト」を推進しています。同プロジェクトの一環として、オープンソースによる地域振興の中心を担う「しまね OSS 協議会」と松江市は、今年度第15 回目となる「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」を開催します。本コンテストは、IT 業界にとどまらず幅広い分野の人達にオープンソースの情報を広く提供し、オープンソースを活用するプランをアイデアから形にすることで、オープンソースを活用した新しいビジネスプランを事業化・起業化へ繋げることを目的とします。本コンテストを通じ、松江市が「Ruby と OSS のまち」としての存在感が高まり、応募プラン・受賞プランが企業等とのマッチングの機会となることで、具体的なビジネス化へ向けた動きとなることに期待します。

ビジネス活用部門

最優秀賞 賞金 **20** 万円
(1名・団体)

優秀賞 賞金 **5** 万円
(1名・団体)

※原則として、個人(一般)での応募とし、3人までのチームの応募も可能です。

学生部門

最優秀賞 副賞 **5** 万円相当
(1名・団体)

優秀賞 副賞 **3** 万円相当
(1名・団体)

※学生(中学生以上)が対象。個人もしくはグループ・団体での応募とし、グループ・団体の人数は問いません。

応募方法

ホームページより所定のプラン用紙をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、「しまね電子申請サービス(松江市)」よりご応募ください。(左記、電子申請サービス(松江市)からもプラン用紙をダウンロード可能です)

しまね電子
申請サービス



HP



コンテストの流れ

一次審査：2023年1月10日の募集締切後に、応募書類をもとに審査。

最終審査：一次審査通過者は最終審査会(2023年2月18日)に進みます。ビジネスプランを発表いただき、審査します。

審査委員

審査委員長	井上 浩	しまねOSS協議会 会長
特別審査委員	まつもと ゆきひろ	一般財団法人 Ruby アソシエーション 理事長
	上 定 昭 仁	松江市長
審査委員	大 場 寧 子	株式会社万葉 会長
	北 村 功	島根県情報産業協会 副会長
	中 村 建 助	日経BP社 技術プロダクツユニット 編集委員
	野 津 和 也	株式会社スマートスタイル 代表取締役
	森 正 弥	デロイトトーマツコンサルティング 執行役員
	土 岐 田 尚 也	株式会社インターネットイニシアティブ
	井 上 亮	山陰合同銀行 地域振興部 部長

昨年の受賞者からの メッセージ

2022年 ビジネス活用部門



最優秀賞受賞

森脇 剛

(松江モノづくり愛好会)

大きな工場棟が並ぶ企業各社では「あそこどうなってたっけな、と現場を見るために往復するムダ時間」の総量が、塵も積もって莫大だぞと感じ、DX化・見える化・リモート化など時代の要請に応える型での変革が、OSS を用いてできるはずだと考えた応募案で受賞しました。普段は「何週間か準備をして緊張しつつ「本番の日」を迎える事物」など無い暮らしをしているので、2次のプレゼン審査での経験は、得るモノが大きい貴重なものでした。受賞後は、審査委員さま方の助言を念頭に、まず知財を取得してから企業各社に相談する、という構想で、ゆっくりとプロジェクトを進めています。(松江モノづくり愛好会取組事例:「松江 取手飾りプロジェクト」「米子城再現CG」「石見銀山坑道CG」「48m出雲大社CG」)

2022年 学生部門



最優秀賞受賞

鄭 煥紀

(駒澤大学)

知り合いが喉頭癌を患い将来的に声を失う可能性があるという聞き、後天性の発声障害をなんとかできないかと考えました。調べていくうちに、ストレスによる失語症も存在するを知り、重症度に関係なく全ての人に使ってもらえるように、スマホのカメラに口の動きを映すことで、読唇して読み取った言葉を音声に自動変換するというアイデアが浮かびました。このコンテストに応募したことで自分のアイデアを多くの人に知ってもらい、現状の課題解決や、障がいを持った方達向けのソリューションが今後さらに増えていったら嬉しいです。

過去の受賞事例は
こちらからご確認
ください。

